

S S T K

142号

## センター21通信

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

### インターネットで結ぶ

## 「骨格提言の完全実現を求める大フォーラム」

昨年10月31日、「骨格提言」の完全実現を求める大フォーラムが開催され、東京をはじめ各地の会場とインターネット zoom とで、多くの人が参加しました。私は埼玉会場（浦和コミュニティセンター）で参加。



フォーラムでは、昨今、より深刻となっている格差・貧困の問題についてや、精神病院での虐待、新型コロナウイルス感染によるクラスター問題など、障害と高齢の種別を越えて、それぞれが直面する困難・いのちの選別の問題が、全国各地の当事者・支援者から語られました。

多くの当事者・支援者からの発言があった中、コロナ禍真ただ中の昨夏の自身の実体験を踏まえた下記、太田さんのお話には説得力があり、深く考えさせられました。

### ＜「障害者自立支援法基本合意の完全実現を目指す会」事務局長・太田修平さんの発言＞

私自身が2021年夏、高熱を出し、入院するという経験をしました。当初は、コロナ感染を疑われていたため、「あなたは感染症なんだから我慢して」の一点張り、家族・介助者の面会は禁止。自分の意思とは関係なく、入院中は無理やりオムツをあてがわれ、とても不慣れた入院生活を強いられました。この経験は、重度障害者の入院中の介護保障について改めて考えさせられる機会となりました。障害者が地域社会で当たり前生きていける体制にはまだまだ程遠く、一層充実を求めていく必要があります。介助

2022年1月3日発行〔毎月1と3と5と6と7と9の日発行〕通巻7747号

SSTK 1983年7月19日第三種郵便物承認

制度をはじめ、教育・交通など、障害者が地域生活する上での課題はまだ多く、障害者自立支援法基本合意の実現は、骨格提言の実現と並んで重要な柱だと思います。

## ＜「埼玉障害者市民ネットワーク」代表の野島久美子さんも発言＞

私たちは、「分けないで！分けないで！お国の都合で分けないで！」、「生きている！生きている！死んでない！死んでない！生きている！」などの掛け声で浦和の街を歩く「ちんどんパレード」を毎年おこなってきました。それに続いて、埼玉県との『総合県交渉』を毎年おこなっていますが、2021年はコロナ感染拡大防止のため対面交渉ではなく「書面回答」という事になりました。

対面の話し合いだと約150名ぐらいが集まり、県の担当者とそれぞれの要望についての話し合いとなります。県の担当者の困った顔や、シラッと回答を読む顔、ムツとして不機嫌になる顔を目の当たりにでき、結構楽しい話し合いですが「書面回答」だと、回答を読んでもやり取りができないのでつまらないです。



要望は、「はたらく」、「くらし」、「きょういく」、「さべつとじんけん」の4本柱でしたが、その根っこになっている考え方は、障害があっても障害がなくても地域で共に「働きあう」「暮らしあう」「学びあう」です。そして優生思想の「出生前診断反対」が柱でした。

そして、私たち埼玉障害者市民ネットワークは「骨格提言の完全実施」を求め続けます。個人的にも、間もなく65歳になります。介護保険優先に大反対です。

最後に、司会者の合図で、各会場から、シュプレヒコールが順番に叫ばれ、終了。埼玉会場でのシュプレヒコールは「国の都合で分けるな～！介護保険優先をやめろ～！」というものでした。

私自身、大フォーラムに参加して感じたのは、それぞれが個々に直面する困難・課題は痛切に伝わってきたものの、皆が力を合わせ連帯し、それらの課題を解決していくために今後どのように行動していくべきか、という具体的な道筋を示すような内容がなく、さらに議論を深めていって欲しいと感じました。（金子敏満）

い りょう き かん にゅういんじ つ そ しゅうち  
**医療機関に入院時の付き添いを周知**  
れい わ ねん がつ ちづけ じ むれんらく  
**(令和3年9月1日付、事務連絡)**

コロナ禍において、入院時の介護の付き添いが認められず苦しんでいる重度障害者の  
こゑをうけて、障害児者への付き添いを積極的に認めるよう、過去2度にわたり事務連絡  
が出されましたが、肝心の医療機関に理解されておらず、厳しい状況が続いていまし  
た。

今回改めて、厚生労働省医政局からも医療関係団体に対して、重度障害者の入院  
時に介護者の付き添いを積極的に認めるよう周知する、画期的な文書が出されました。

(SSKO要求者組合通信「くみあい」11月号より転載)

# ふれあい広場イオンタウンふじみ野で開催！

## —第26回ふじみ野市「ふれあい広場」開催報告—

例年、12月の障害者週間に合わせて開催されている、ふじみ野市障害者週間推進事業「ふれあい広場」が、2021年11月29日、イオンタウンふじみ野を会場に開催されました。

コロナ禍で小規模の開催だったものの、例年通り市内障害者団体による授産品販売・パネル展示が会場で行われたほか、事前に収録された、市内の障害者によるパフォーマンス動画も当日、上映されました。各団体の販売ブースはビニールシートでしっかり区切られ、全員マスク着用と、新型コロナウイルス感染防止対策万全での開催でした。当日、イオンタウンふじみ野に買い物に来てはじめて、ふれあい広場開催中であることを知った人も、大勢立ち寄ってくれました。



会場の様子

ただ、今回、感染防止のため、出店する側にとっては開催前から厳しすぎるとも思える様々な制限が課せられ、例年にはない手間を要し苦労した、というのが正直な所です。



レタスの販売ブース



以下、会場で参加したセンター21職員・通所者の感想を掲載します。

会場はイオンタウンふじみ野1階のセントラルステージで、開幕キーボード演奏会、開会式とその後の授産製品等の販売を、3階でパネル展示をおこなった。ステージと



も、学校の教室2室分くらいの広さなので、開会式も販売も窮屈で、ステージに向かう観客席もコロナ対策で、隙間を開けて椅子を並べたので、何人も座れない。参集した出店者や準備関係者の多くは椅子の後ろで立ち見していた。全部で60人前後か。

2、開会式 司会進行は、上福岡作業所とくまのベイカーズの通所者1名ずつ、サポートはボラ連から1名がついた。開会式冒頭に、市内の女性音楽家とその息子がクリスマスメロディのメドレーを演奏。これは、障害者週間の意義を踏まえていない企画だったと思う。

演奏の後に市長、市議会議長、イオンタウン経営者等が挨拶。残念ながら、イオン店内との間に仕切りはないので、あいさつの声は立見席までよく届かない。聞き取れた限りでは、最近の障害者福祉状況やふじみ野市の障害者施策に触れた発言はなかった。



3、パネル展示。12月6日から10日まで。市役所本庁舎1階のギャラリーで。12月13日から24日まで大井総合支所1階で。参加障害者団体のパネルと作品展に応募した絵や手芸品の展示。作品は共同制作作品が2点、後は個人のもの。残念ながら、応募点数が少ない。もっと賑やかであってほしい。もっとも、レタスの千代田教室で描いた絵は、埼玉県の障害者絵画展に応募してしまって、こちらには出品しなかったのだから、大きなことは言えないが。(センター21代表・有山)

- 1、イオンタウンでやらせてもらったのは、よかったのではないかな。開会式の前に音楽の演奏があり、この音で開会式会場を見に来てくれた買い物客もいた。
- 2、障害者のイベントなのに、来場した障害者が少なかった。
- 3、開会式・販売会場の一角に、作品展応募作品が置いてあったが、これが何なのかの表示がなく、よくわからなかった。
- 4、イオンタウン3階のパネル展示は、行ってみたらだれもいなかった。場所を変えたほうがよいのでは。
- 5、コロナ禍で、開催するかどうかためらいがあったのかもしれないが、準備会を開くのが遅かった。(下重)



## 国政選挙・地方自治体選挙の投票時に困ったこと

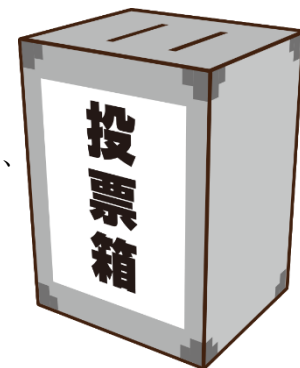
昨年10月31日、衆議院議員選挙、ふじみ野市長選挙等が行われました。投票日当日や「期日前投票」で投票日前に、投票所で投票した職員・当事者、また「郵便による不在者投票制度」をはじめて利用し、自宅から投票した職員の感想、今後への要望を掲載します。

●ホーム入居者に同行して、介助者として投票に行きました。

しかし投票所に着いてからは、一緒に行動することができず、投票所にいる係員が付き添うこととなりました。

後で聞くと、「はじめての係員に質問することができず、投票用紙の書き方や手順など、よくわからなかった」と言っていました。

投票の際、障害者ひとりひとりの対応をわかっている介助者や家族が付き添えることができるようになれば良いと思います。



(第1ひまわり世話人)

●期日前投票にホーム入居者とともにに行ってきましたが、「投票箱の種類が多くて、よくわからなかった」と言っていました。選挙の内容や立候補者の主張など、投票する際必要となる情報は我々、職員の側が事前に調べて、皆に周知しなければと思います。また、投票所に選挙ポスターの写真が貼ってあるなどの対応があれば、誰にとっても、より分かりやすい選挙になるのではないかと、思います。

(第2ひまわり世話人)

### はじめての「郵便投票」体験記

投票日当日、用事のあった私は今回はじめて「身体障害者手帳所持者で、身体に重度の障害がある者は、投票用紙を選挙管理委員会に郵送することで投票できる」(郵便による不在者投票、「郵便投票」)制度を利用してみました。

富士見市ホームページの説明によると、「郵便等投票証明書」を既に持っている人は、投票用紙を請求するための申請書を郵送し、その後、郵送されてきた投票用紙に記入

し、返送すれば投票完了。

はじめて郵便投票をおこなう私は、まず事前に、「郵便等投票  
証明書」交付の手続きが必要とのことで、申請書に記入し、身体  
障害者手帳のコピーを添えて、市役所あて郵送。その後、郵便等  
投票証明書がなかなか送られて来ず、連絡もなく焦りました。

結局、「投票証明書」は、選挙公報・投票用紙などとともに  
送られてきましたが、返信用封筒も色分けされている  
ものの、種類が多く、入れ間違いがないか、不安になりました。

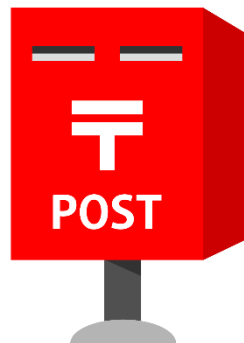
その後、投票用紙に記入して返送し、投票完了。

実際に利用した感想は、「とにかく使い勝手が悪すぎる！」の一言に尽きます。

選挙=国民の代表を決めるというものなので、厳格な手続きが必要なのは理解できます  
が、一回の選挙で、何度も申請手続き・郵送が必要なのは非常に面倒だと思います。

また、はじめてこの制度を利用したいと思う人に対して、投票までの流れなど、広報・  
ホームページにも詳しい解説がなく、まったく不親切だと感じました。何度か選挙管理委  
員会に問い合わせの電話もしましたが、忙しいのか、取り合ってもらえませんでした。  
重度障害者等が投票する権利を制限しているといってもよいと思います。

制度をもっと広く周知するとともに、「郵便投票」が気軽に利用できるよう、改善を  
望みます。  
(富士見市在住、金子敏満)



## 付き添い投票で異例の在宅起訴 障害者の母、大阪地検

2021/11/18(木) 21:17 配信 ■ 154



障害がある娘の付き添い投票を巡り、公選法違反の罪で在宅起訴された母親＝10月、大阪市

「大阪都構想」の賛否が問われた昨年11月の住民投票を巡り、障害のある娘の期日前投票に付き添った母親（59）が娘の分を記入し投票したとして、公選法違反の罪で大阪地検に在宅起訴されていたことが18日、母親らへの取材で分かった。投票の偽造や干渉の罪に問われている。

専門家は起訴は異例のケースとしており、選挙管理委員会が代理投票に適切に対応していなかった可能性を指摘。選管側は問題はなかったとしている。

母親は大阪府警に書類送検され、今年3月に在宅起訴された。母親は取材に「代理投票のルールの説明はなく、どのようにして意思を確認するか協議もなかった」と話した。



# きょうどうしゃ 協働舎レタス通信 つうしん.....



## 【★ふれあい広場@イオンタウンふじみ野★】

新型コロナウイルス禍のため、2年ぶりの開催になった、ふじみ野市ふれあい広場。今年度はなんとイオンタウンふじみ野での開催になりました！

お馴染みのレタスのパン屋が、イオンタウンの中で時間限定出店しました！



11時半すぎから販売が始まりました！

たくさんのお馴染みのリピーターさんに来ていただき、初めての方も何人かご来店されました！

貴重な体験をいただき、ありがとうございました！

## 【第2レタス報告】

喫茶「歩歩」飲食の営業を11月より再開しました。コロナ禍で制限されてきて、約1年8カ月ぶりの営業になります。

ステラ・イースト（旧上福岡公民館）・西公民館かみふくおかとしょかん上福岡図書館・フクトピアと4店舗になります。

利用者みなさんも久しぶりに喫茶の仕事ができはりきっています。是非お立ち寄り下さい。



## 2021年レタス3大ニュース決定！！

- 1位 6月、レタス所長が有山さんから白井さんに交代。(14票)
- 2位 3月、有山さん、心筋梗塞で入院、手術。(7票)
- 3位 12月、忘年会としてボッチャ体験会と外食。(5票)



# くまの新聞

## バイカース 今年の3大ニュース

※右の写真は、東武動物公園での仲良し3人組の1コマ。いちばんたのしんでいるのは誰？



1. 東武動物公園に行った
2. 新しい仲間が増えた  
(吉嶺さん、田村直美さん、八巻さん、林弘美さん)
3. いろんな会議ができなかった(泣)

コロナ以前は、毎年恒例だった研修旅行や工場見学。久しぶりにバスを利用して東武動物公園に行きました。もちろんバスの中では、窓を開けて換気をして「カラオケ大会」楽しかったですね！

新し仲間も増えました。早くバイカースに慣れて色々な仕事にチャレンジしていきます。会議やイベントの多くが、コロナの影響で中止となりました。来年は再開されるといいな～

## 青空班 お米大収穫でした

今年で3年目を迎えた米作り、新しく土地を借りて広がった田んぼで、たくさんの稲を植え、稲を刈り、脱穀しました。脱穀した後の藁でカカシを作って畑に立てました。



- 1 1月の作業実績
- ・食事作り=16回(650食)、クッキー袋詰め=19, 553袋、クッキー箱詰め=5, 605箱
  - ・お弁当配達=229食、ふじみ野市役所ロビー販売=4回実施(毎週火曜日)



# ホームだより



## ホーム3大ニュース

### 1.長谷川さん、交通事故に遭う

上福岡駅前郵便局前の横断歩道を青信号で歩行中に、左折してきた車が衝突。事故に遭ってしまいました。幸い、大事には至りませんでしたが、腰椎を骨折する怪我を負ってしまいました。「交通安全をお互い意識していても、こういう事故が起きてしまう。交通安全にやり過ぎはないということを感じました。今は痛みも引き、仕事も復帰しました。皆さんもくれぐれも気を付けてもらいたいです。」(長谷川さん)



### 2.新井さん、膀胱の手術をする

尿の出が悪く、膀胱の結石が大きくなってきたため、8月にイムスにて手術をしました。1週間入院しましたが、退院後はバルーンをつけながら歩行もままならず、今後の生活を心配しました。術後2か月程で徐々に回復。最近では調子が良くなってきて、皆で旅行にも行くことができました。

### 3.第1 ひまわり、ガスコンロ、水栓を新しくする

不具合等があった為ガスコンロと水栓を交換しました。新しくなり気持ちが良いです。



## 11/13 ホーム合同日帰りバス旅行

今年もコロナ禍の為、一泊旅行は行えませんが、忘年会も兼ねて、深谷へ日帰りのバス旅行へ行ってきました。ちょうど感染者数も落ち着いた時期で良かったです。大河ドラマ館や、渋沢栄一記念館。お天気もよく無事にやってこられて何よりです。





## 相談支援センター あいほうリポート



# しょうがいしゃはもの 障害者は腫れ物か？

社会的弱者であっても、世の中で自分らしく当たり前前に生活していきけるよう支援していくのが相談支援の原則なのですが、時としてそれが非常に困難なケースがあり、様々なジレンマを抱えることが多いのです。

ある障害当事者から希望を聞くと「もっとしっかりと支援してほしい。」「就労できるので早く仕事を紹介してほしい。」等と話してきますが、客観的に見ると内省が足りずに自己主張が強く、当方が丁寧に支援していても要求や不満ばかりが増大していってしまうのです。その人は日中活動や仕事に参加してみてもすぐに不満が募り、人間関係が上手くいかず、円滑に仕事が回らなくなり辞めざるを得ない状況になってしまいます。それでもご本人は他罰的で全ての原因を他人のせいにしてしまいます。

勿論これはご本人の単なるわがままではなく、障害の特性でこのような思考・行動になってしまっているのであり、ご本人は「自分が間違っている。」とは考えられない状態なのです。倫理的には障害当事者の声を聞き、社会で活躍できるように働きかけていかねばならないのですが、現実には「いくら丁寧に話してもご本人に通じない時もある」のです。そのような方は主治医とも関係性が悪い事が多く、病院を転々としています。また、家族間の関係も悪い事が多いです。そうした中でその方と接していると、支援者がどんどん追い込まれて疲弊していきいます。そうなってくると、支援者の口から「あの人はパーソナリティ(障害)だからしょうがないよね。」等というひどい言葉が出てきてしまいます。このような場合、本来であればネットワーク支援を形成し、医療と福祉との連携を展開したり、スーパービジョンやコンサルティングを活用するという事になるでしょう。しかし実際は資源不足でかなり難しい。なるべくその当事者とは関わらず、腫れ物に触るような対応になりがちです。そうすると担当相談員やその先輩・上司は当事者から攻撃され続ける事になるのです。

支援において、「生命の保護」といえば明確に最重要である事が分かりますが、社会正義そして自己決定についてはその抽象性ゆえ幅があります。また、このケースでは第三者への危害が及ぶことがあるにしても、その危害が極めて重大かというところまでではないという判断になるでしょう。公正性と一貫性を持ったサービス提供が基本であり原則なのですが、それはその人の障害特性によって変化するものであると思います。一般的なものではなく、一人一人の障害当事者に対してそれぞれの公正性と一貫性が存在しているのです。一つの考え方で全ての人々を支援することは不可能だなどと思います。

現場では相談員やワーカーがメンタルを病み、バタバタと倒れています。支援者が一方的に犠牲になってはいけない事も念頭に、ジレンマが生じた時にはいろいろな人や機関にすがりつつ、ソーシャルワークの意味や価値を繰り返し問い続けています。



# ににんさんきゃく 二人三脚だより

特定非営利活動法人 上福岡障害者支援センター21  
自立生活センター二人三脚

vol.77

## ににんさんきゃく だい 二人三脚 3大ニュース

### 1. 新井さん 正職員へ

職員2名が退職し、人手不足の状態でしたが、サポーターの新井英樹さんが正職員として働いていただくことになりました！

※絶賛男性職員募集中です!!

### 2. 斉藤さん コーディネーターに就任

斉藤勝男さんが、男性利用者のコーディネーターに就任しました。人手不足でやりくりが大変な状況ですが、頑張っています！

### 3. 柿とゆずが豊作

毎年、二人三脚事務所の庭にできる柿とゆず。  
今年は特に豊作で、ヘルパーさんが収穫しています！





# れいわ ねんど こうしゅうかいほうこく 令和3年度サポーター講習会報告

11月24(水)、28日(金)の2日に分け、サポーター講習会が西公民館で行われ、計19名のサポーターの方が参加しました。

『新型コロナウイルス感染症対策について』というテーマでビデオ研修、感染防護具(医療用ガウン)の着脱実践等を行いました。

まずは、グループワークで「新型コロナウイルス」の理解度を計る簡単なテストを行い、今までの認識が間違っていなかったか確認しました。

次に、医療用ガウンの着脱実践を動画と説明を参考に行いました。着脱を实际やってみると、思った以上に気を配る点が多く、想像以上に大変な作業でした。

その後、休憩を挟み、虐待防止についてビデオ研修(\*埼玉県における障害者虐待の現状と埼玉県虐待禁止条例について)を行いました。

最後に、交通安全、活動報告書についての説明と質疑応答があり、講習会は終了しました。



講習会の様子



医療用ガウン着脱実践

## 参加者の感想

## サポーター講習会に参加して

特に今回の新型コロナウイルスについては、私なりの認識を持っていましたが、私自身は同年代(65歳以上)の人たちと比べて接種時期がだいぶ遅くなってしまいました。それというのも既存症や副作用等、いろいろな情報が錯綜しており、今一つ接種を受け

る気持ちにはなれなかったのです。ですが、仕事柄（しごとがら）そうも言（い）ってはいただけ（い）ません。結局（けっきよく）著名（ちよめい）なクリニックで接種（せつしゅ）を受けることになりましたが、問診（もんしん）コーナーでおよそ医療（いりょう）従事者（じゆうじしや）の医師（いし）としては信じ（しん）じられない言葉（ことば）を耳（みみ）にしました。

既存症（きぞんしょう）や副作用（ふくさうじゆう）等（とう）についての質問（しつもん）に「そんなことは関係（かんけい）ない。なつたらなつたときのこと。受（う）けるの受（う）けないの?」と、即断（そくだん）を迫（せま）られました。確（たし）かに私（わたし）の背後（はいご）にはたくさんの接種者（せつしゅしや）が並（なら）んでいて、一人（ひとり）の接種者（せつしゅしや）にあまり時間（じかん）をかけておられ（た）ず大変（たいへん）な状態（じょうたい）だったか（か）もしれ（し）ませんが、乱暴（らんぼう）な対応（たいおう）でした。

初（はじ）めての接種者（せつしゅしや）にもう少し不安（ふあん）を和（やわ）らげる対応（たいおう）があつても良（よ）かつたのでは（お）も思（おも）いました。それ（それ）に引き換（ひ）え、今（いま）回のサポーター講習会（こうしゅうかい）では、いろい（ろ）ろな質問（しつもん）に對（たい）して丁寧（ていねい）に對（たい）応（おう）していただき（た）き、大変（たいへん）参考（さんこう）になりました。私（わたし）はこれ（これ）が本来（ほんらい）医療従事者（いりょうじゆうじしや）のあるべき姿（すがた）ではな（な）かつたのか（か）と思（おも）いました。



りようしや こえ  
利用者の声



二人三脚（ににんさんきゃく）のサービス（サービス）をご利用（ごりよう）されている、ふじみ野市（のしざいじゆう）在住（じゆう）で視覚障（しかくしょうがい）害（がい）をお持（も）ちの  
小川俊之（おがわとしゆき）さん（さん）（68歳（さい））にインタビュー（インタビュー）にお答（こた）えいただき（た）きました。

Q. いつから二人三脚（ににんさんきゃく）を利用（りよう）していますか？ また、介助（かいじょ）内容は（なん）何（なに）ですか？

A. 3～4年前（ねんまえ）からだ（だ）と思（おも）います。

介助内容（かいじょないよう）は、同行援護（どうこうえんご）で、買（か）い物（もの）や市役所（しやくしょ）の手続（てつづ）きに行（い）く時（じ）など利用（りよう）しています。

Q. 趣味（しゆみ）（好きなこと）は（なん）何（なに）ですか？

A. 将棋（しょうぎ）、カラオケ、旅行（りょこう）

読書（どくしょ）が楽（たの）しみです。サビエ図書館（としよかん）からインターネットで  
p t r 3 という機械（きか）いで聞（き）くことができ（か）ます。各地（かくち）にある  
点字図書館（てんじとしよかん）でリーディングサービス（サービス）をうけています。

自分（じぶん）の好きな作家（さ）は、東野圭吾（ひがしのけいご）と、佐々木（ささき）ゆういちです。

推理小説（すいりしょうせつ）や時代劇（じだいげき）が好（す）きです。



おがわとしゆき  
小川俊之（おがわとしゆき）さん

Q. 介助してもらって良かったこと、大変なことは何ですか？

A. 歩くとき道に迷わなくなったこと

Q. 普段、生活していて何か不便に感じていることはありますか？

A. 今の生活は失明してからとても不自由です。  
好きだったスキーや釣りができなくなった

Q. どこか介助者で行ってみたい所はありますか？

A. とくに行きたいところはありません。

・何か言いたい事があればご自由にお書きください。

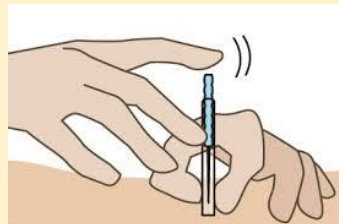
A. とてもよくしてもらっていますので特にありません、これからも宜しくお願いいたします。

さいきん じたく ちりょういん かいぎょう  
最近、自宅に治療院を開業しました。

はりマッサージの施術を行います。肩こり、腰痛、神経痛、婦人科疾患に特に効果  
があります。不妊症や生理痛などなど。美顔はりも得意としています。

りょうきん  
料金はマッサージ 50分3500円、はりマッサージ 70分5000円、美顔はり+マッサー  
ジ 3000円です。完全予約となっております。

おがわ いん  
小川マッサージ院  
じゅうしょ の し か み ふ く お か  
住所 ふじみ野市上福岡1-15-18  
でんわばんごう  
電話番号080-5033-5525



# お知らせコーナー

## 今後の予定

1月	2月
17日 かつぼ店番	6日 市民活動交流会（フクトピア）
26日 NPO事務局会、千代田教室	7日 かつぼ店番
31日 かつぼ店番	8日 NPO事務局会
31日 市民活動交流会展示 (2月4日まで)	17日 ふじみ野市就労系事業所 ネットワーク会議
	18日 協働者会議
	22日 NPO事務局会
	26日 職員研修会
	28日 かつぼ店番

### <目次>

『骨格提言大フォーラム』報告	・・・P1～P3
ふじみ野市「ふれあい広場」報告	・・・P4～P5
国政選挙・地方自治体選挙の際、困ったこと	・・・P6～P7
各部署報告	・・・P8～P15
お知らせコーナー	・・・P16

「障害者制度改革埼玉セミナー part 13」  
3月12日（土）13時30分～16時（予定）  
会場 岩槻駅東口コミュニティセンター多目的ルームC  
講師 尾上浩二氏（DPI日本会議副議長）  
テーマは調整中です。

### 編集後記

年明けからオミクロン株の感染者が増え始め、今後の動向を注視していかなければなりません。センター21内の各部署においても、引き続き、感染拡大防止対策を取りながら、活動を続けていきます。  
今年こそはコロナが早く収束し、普段の日常に戻ることを祈るばかりです。  
本年もどうぞよろしくお願いたします。

編集人 NPO上福岡障害者支援センター21

〒356-0004 ふじみ野市上福岡 4-6-11 イシデンビル1F TeI 049-264-5497

Fax 049-257-7510

ホームページ&メール <http://k-center21.net> 領価 100円

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

川口市芝新町 15-9 アステール藤野 1F